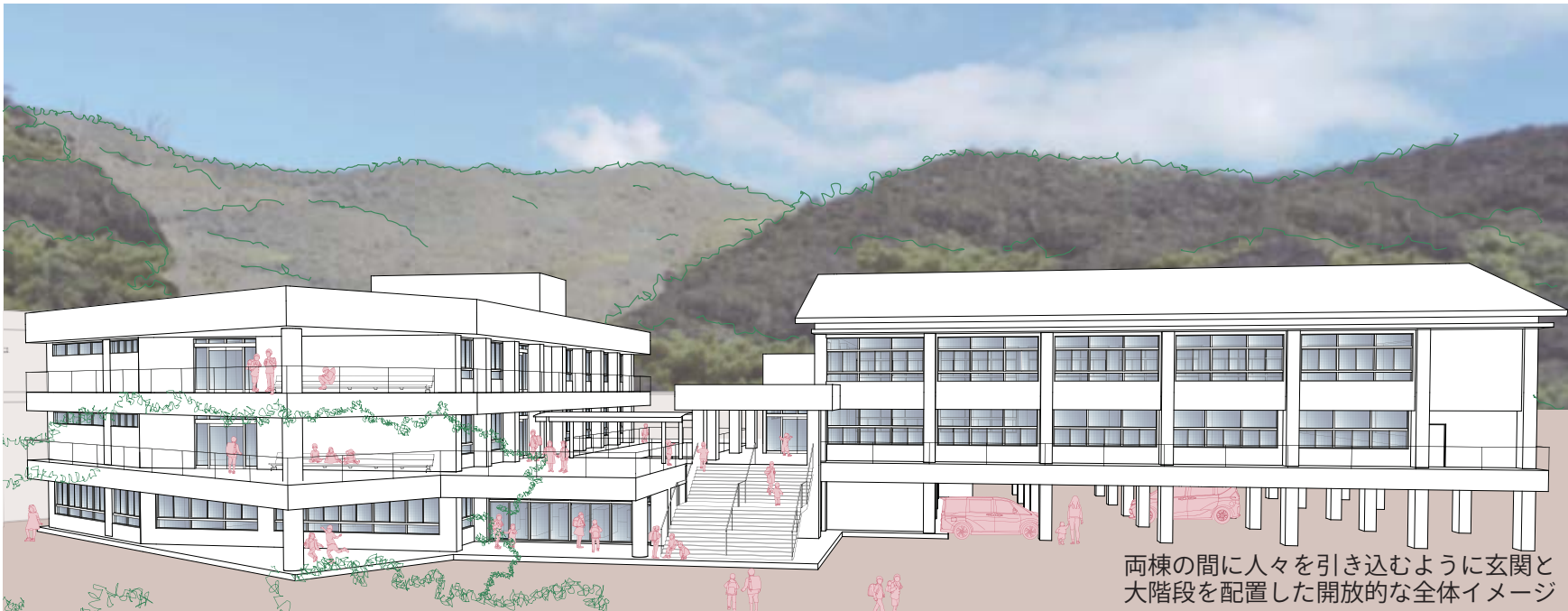


$1/2$



両棟の間に人々を引き込むように玄関と大階段を配置した開放的な全体イメージ

03 地域に愛され、安全で持続可能な学校運営を実現するための提案

■セキュリティゾーンの区画

明確なセキュリティゾーンを区画することで、屋内運動場や既存棟(14号棟)1階の多目的室における休日の地域開放や「放課後の学童クラブ」利用等の時間外利用時の安全を確保することが出来ます。

■児童と地域の交流

「わらんきゃの庭」やクリエイティブ・ラボ等では、生徒が地域や企業の人々と協働・共創体験を得ることにより、地域と学校の交流が生まれるだけでなく児童自身がクリエイティブな発想力を身に付けることが出来ます。

■地域特性を取り入れた快適で省エネな建築の実現

普通教室は南面させ自然採光を積極的に取り入れ、窓面には深い庇を設けて直達日射や西日を遮蔽します。街並みを望む南側の大デッキ「みんなのテラス」や「わらんきゃの庭」に面した大開口からは、十分な通風と自然採光を確保するなど、自然環境を最大限利用した地域風土に根ざしたエコスクールの実現を目指します。また、オープンスペース等を用いた多様な学習活動の展開に柔軟に対応出来る空調方式と高断熱性能を持つ仕上材の採用で快適な教育環境を創出します。



■風土に応じた設備機器計画

空調機は室外機と室内機が1対1のタイプを採用し、台風等でやむを得ず故障した際も他の空調機が作動でき、故障機器単体での修理で対応できる方式とします。

■災害時の地域の防災拠点

災害発生時には、避難所等の地域の防災拠点施設となる屋内運動場は、1階がピロティになっており台風や豪雨による土砂被害を受けにくくなっています。またピロティ駐車場を活用して雨天時でも被災者対応を容易に行うことが可能となります。駐車場には保健室も近接しており、医務的なバックアップにも対応します。

■地域の声を学校建築に反映

学校は「子供の学びの場」だけでなく「地域づくりの核」にもなるという視点を持ち、児童や教職員に加えて世代を超えた地域住民の方々と交えたワークショップを行うことで、住民参加型の設計プロセスとなり、地域協働の舞台となるような学校づくりを提案します。また、地場産材を活用し、一般流通材の活用も視野に入れた工法とすることで、材料調達・現場施工・メンテナンスまで地産地消のサイクルを生みだし、地域の森林更新にも寄与する地域に根差した循環型施設としての学校を提案します。



別プロジェクトのワークショップの様子

建物模型や3Dモデルを通して、図面では伝わりづらいイメージをみんなで共有し、より多くのアイデアを引き出します。

04 工事期間中における児童負担の軽減を実現するための提案

■安全性と経済性に配慮したスムーズなローリング計画

下記の事項を基に大きく4段階に分けた建替計画で、より効率的で安全な建替え工事とします。

仮設校舎を設けず管理のしやすい校舎に

仮設プレハブは設けず、全て既存教室棟の地盤レベルで対応。児童の動線と工事動線も明確に区分し、コストも縮減

メイン設備（給排水・電気）を最初に設置

浄化槽や高圧受電設備、給水ポンプなどを1期工事時には整備し、次期工事における仮設配線や配管を減らす

引越す部屋（伴う改修工事）を最小限に

空き教室と解体建物の調整により、部屋の移設を最小限にとどめ、配膳室・保健室などは屋体工事時に先に設ける

地域の原風景である既存樹木を残す

奉安殿まわりの樹木の他、既存体育館まわりの大樹も地域の宝として伐採しない建替え計画とする

ローリング計画

令和6年度

令和7年度

令和8年度

令和9年度

令和10年度

R11

既存校舎解体・改修

改修（14号棟）

解体（6-1・2号棟）

屋内運動場新築

新築工事

既存校舎解体・改修

改修（14・15号棟）

解体（4-1号棟）

解体（屋内運動場）

新校舎新築

新築工事

外構工事

改修・解体設計

14号棟改修（教室・家庭科・自活室など12室を14号棟へ）

6-1・2号棟解体

解体前に浄化槽を先行設置

基本設計

実施設計

屋内運動場建設（配膳室・保健室も1階に新設）

改修・解体設計

※夏休み中の改修工事→

14・15号棟改修（管理諸室・会議室等を14・15号棟へ）

4-1号棟解体

既存屋内運動場解体

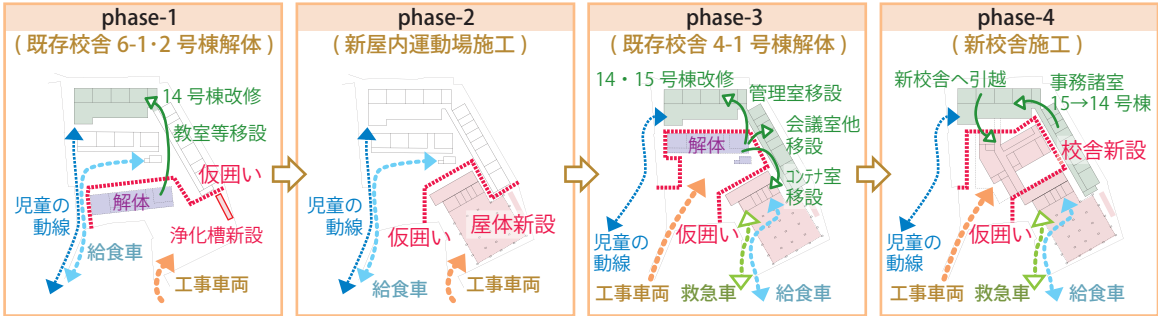
基本設計

実施設計

校舎新築工事

駐車場のみ

外構工事



05 その他、独自の提案

■より良い教育環境の創出と総合的なコスト軽減を見据えた提案

資材や人件費の高騰で工事費の増大が想定される今、より良い地域の学び舎の形成と総合的なコスト軽減を両立するため、以下の工夫が根底にある提案となっています。

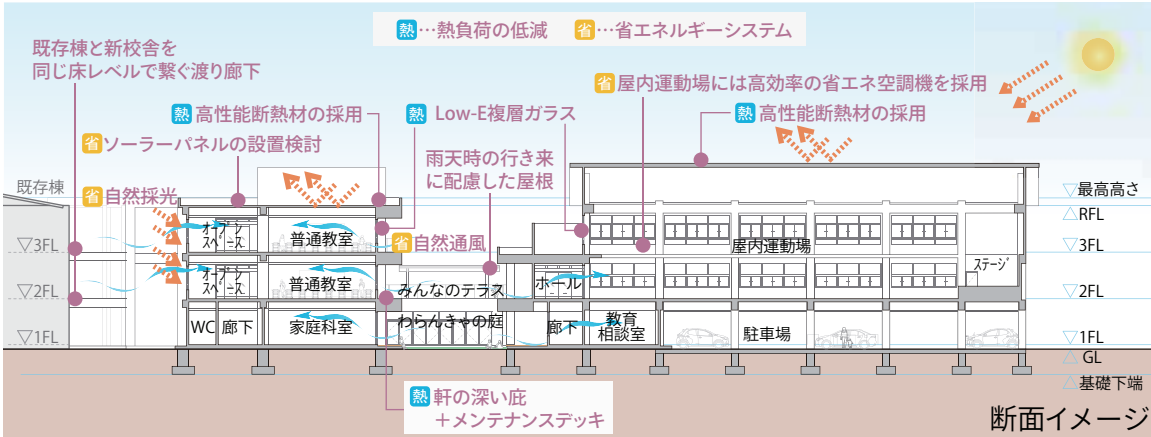
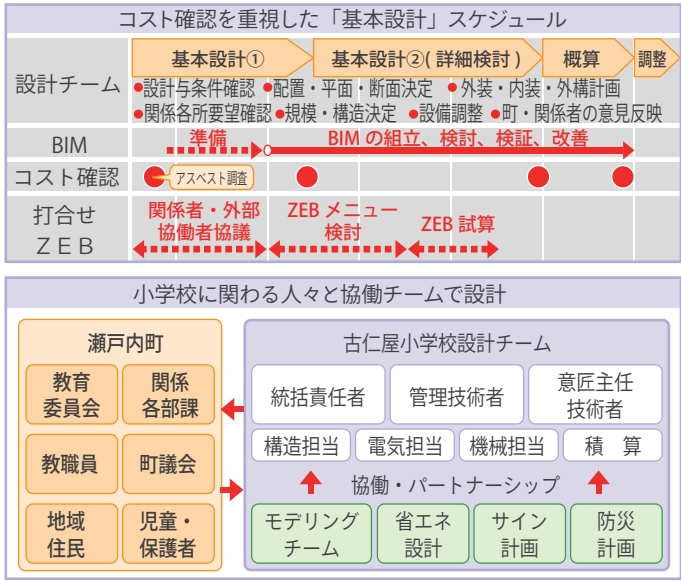
屋内運動場の2層化	便利な駐車場を有効に確保	段階的な工事計画	仮設校舎がなく校内移動も容易
中庭型の校舎配置	全ての新設普通教室を南面	既存樹木を活かす	植樹や移植などの外構費が不要

■コストを見据えた設計プロセス（基本設計時のコスト確認を重要視）

豊富な公共建築・学校建築の実績を活かし、工期とコストを確実に管理します。基本設計の早期でコスト分析、概算、類似施設費用の調査を実施し、的確なコスト把握を行います。地域の提案を反映するためのワークショップは定期的に開催し、地域・児童・教員との対話から合意形成を図りながら、柔軟に案を更新する設計プロセスです。

■豊富な経験を協働に活かす

児童・保護者・教職員等様々な人々とのコミュニケーションを通じて、潜在的な要望の把握・解決に努め、より良い施設を目指して業務を遂行します。設計の初期段階から地域・学校関係者のみならず、教育関係者・地域協働者等との意見交換の場を設け、子供たちの学びに必要な要素を精査し反映します。全て鹿児島在籍の事務所で構成しており、地元設計事務所と連携してより良い学校づくりに邁進します。



断面イメージ